

沼津市

# 明治史料館通信

2001.7.25 (季刊 年4回発行) Vol.17 No.2 通巻第66号



## 日本三大仇討「伊賀越の敵討」と沼津その2

ぬまづ近代史点描 ④7

「東海道五十三次の内（役者見立東海道）  
沼津 荷物平作」（木村昭和氏所蔵）

三代歌川豊国画 堅大判 嘉永五年（一八五二）

版元 住政（住吉屋政五郎）

彫師 彫竹（横川竹次郎）

人形浄瑠璃の『伊賀越道中双六』が、大坂の竹本座で天明三年（一七八三）四月に初演された同年の九月、早くも歌舞伎の『伊賀越道中双六』が、大坂の「中の芝居」で初演された。

このように、人気の出た人形浄瑠璃を歌舞伎に取り入れて上演したものを、丸本（院本）物という。人形浄瑠璃と同様、歌舞伎でも『伊賀越道中双六 沼津』の人気は高く、現在でも上演されている。

登場人物の平作・十兵衛・お米親子は、歌舞伎役者を描く役者絵の題材としても取り上げられた。

平作親子が描かれている「役者見立東海道」は、江戸時代後期に役者絵を得意とした三代歌川豊国（一七八六〜一八六四）が、前面に歌舞伎役者の見立絵を大きく描き、背景に宿場の風景を添えたシリーズである。

見立絵とは、歌舞伎の役を演じるのに最もふさわしい役者の似顔大首絵を描くもので、天保の改革の余波により、歌舞伎の場面や役者名を画中に表わせない事情から、盛んになった。

表紙の「沼津 荷物平作」にも役者名が記されていないが、目錄から、弘化三年（一八四六）に亡くなった二代目嵐猪三郎であるとと思われる。

また、背景には、歌川広重の「狂歌入東海道」や「葦屋版東海道」の図柄を、ほぼそのまま取り入れている。

「役者見立東海道」は、総数百二十八図の大揃いであり、飯島虚心著『浮世絵師歌川列伝』に、「こゝに於きて豊国、俳優似貌に見立てたる東海道五十三次の錦絵を、かき出たせしが大に世に行はる」と記された幕末の一大人気シリーズであった。

この他に、平作親子は、歌川国芳の『東海道五十三対』（四ページ）など、数種の東海道シリーズに取り上げられている。

〈参考文献〉新藤茂『五渡亭国貞』（一九九三年）、岩波講座歌舞伎・文楽第4巻『歌舞伎文化の諸相』大野和彦『浮世絵大東海道 上』（一九九八年）、野島寿三郎『歌舞伎人名事典』（一九八八年）、和角仁『歌舞伎』（一九九〇年）

シリーズ  
沼津兵学校とその人材

61

## 沼津兵学校とラッパ

軍行動のため、あるいは儀礼のため軍隊が楽器を使用するのは洋の東西を問わない。古来、日本には法螺貝・太鼓・銅鑼などがあった。しかし、幕末に西洋の軍制が導入されると、新しい舶来の楽器が昔からの楽器に取って代わることになった。中でもラッパは有効な道具とされ、いち早く取り入れられた。日本における洋楽普及の端緒である。

慶応二年十二月（一八六七年一月）、幕府の招きに応じフランスから十六名の軍事顧問団が来日した。彼らは、最初横浜で、後に江戸において、軍事力増強を目指す幕府のため歩兵・騎兵・砲兵の三兵伝習を担当することになった。その十六名の中に近衛獮歩兵大隊ラッパ伍長のギュティッグという人物がおり、彼の手により日本で最初のラッパ手が養成されることになる。

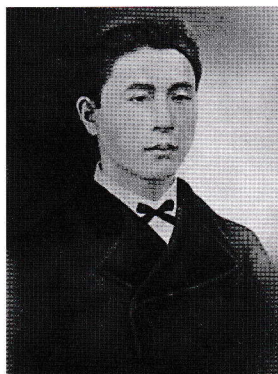
慶応三年五月、幕府の三兵伝習

掛は当局に上申書を提出し、横浜のフランス軍事顧問団のもとで十二名の御料所歩兵（幕府が領民の中から募集した兵卒）にラッパを習わせていたが、うち十名は上達が早く教師から赤房を付ける名誉を与えられた、彼らをそのまま、帰村させてしまうのは惜しいので、

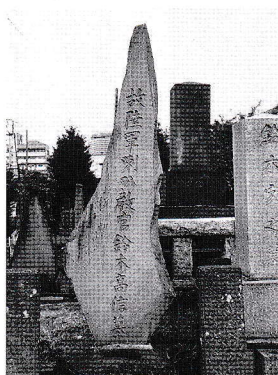
苗字帯刀を許し年二十五両の給金で雇いたいと願い出た。この上申は許可され、彼らは喇叭手嚮導役として召し抱えられ、苗字帯刀を許された（勝海舟『陸軍歴史』）。

このうち、鈴木与三郎・厚沢楠五郎・梅沢伝吉・小泉喜三郎・前田清一郎・堀久五郎という六名の名前が判明している（「陸軍局御用留」、名雲書店『ニュースボード』第三十八号掲載）。

そして、筆頭に名があがった鈴木与三郎こそ、沼津兵学校で喇叭方教授をつとめた鈴木高信（与三郎、？〜一八七九）その人である。喇叭方教授という役職名は明



鈴木高信  
(鈴木弥彦氏所蔵)



鈴木高信の墓  
(青山霊園)



戸張胤邦  
(戸張眞明氏所蔵)

明治37年(1904)10月18日、浜松にて撮影、52歳。日露戦争にあたり、浜松停車場司令官として鉄道輸送業務に従事していた際。

治二年の名簿「沼津御役人附」にあるが、翌年の「静岡御役人附」では喇叭手教授方と変わる。また、三年の役人附になると鈴木一人ではなく、兵学校附属喇叭手出役として十四名の名前が掲載される。鈴木の出役が掲載されたのである。

明治三年(一八七〇)、沼津兵学校にはもう一人、ラッパの専門家が加わった。五月二十一日軍事掛附属に任じられ、七月十一日に喇叭教授方となった梅沢有久なる人物である(中村理平『洋楽導入者の軌跡—日本近代洋楽史序説—』、一九九三年、刀水書房、五七頁)。梅沢という姓からして、彼は慶応三年に喇叭手嚮導役として召し抱えられた梅沢伝吉と同一人物である可能性が高い。伝吉はもともと上野国の百姓で、兵賦として領主

から徴兵された者だったようだが(陸軍局御用留)。

鈴木にしる梅沢にしる、庶民の身分からラッパの演奏技能によって士分に切り立てられ、維新後もさらに自分の力を伸ばしていった。能力主義を採った静岡藩でもそんな彼らを切り捨てることなく、活用したのである。

沼津兵学校の喇叭方教授の実態は不明である。映画「沼津兵学校」(今井正監督、一九三九年・東宝)には資業生がラッパを吹く場面があるが、実際は資業生や一般の生徒には教えられず、喇叭手を目指す者のみを対象に教育が行われたと考えるべきであろう。

操練の際には喇叭方教授や喇叭手出役は当然活躍したのである。愛鷹牧での馬狩りには、訓練も兼ね兵学校の教授陣や生徒らが動員

されたが、昼食や休憩の合図としてラッパが使用されたことがわかっている(樋口「愛鷹牧余録」『沼津市博物館紀要』16)。

明治五年(一八七二)五月、沼津兵学校は廃校となり、最後まで残っていた資業生は東京へと引き上げた。その際、沼津から東京への行軍に、十四名の喇叭手出役のうち中山千代作が同行した。

鈴木高信はその前年十二月には兵学寮十三等出仕に任命されていた。彼は明治政府の陸軍に仕え、やはりラッパ教官をつとめた。また、梅沢有久も政府に出仕、明治十五年(一八八二)に亡くなるまで教導団のラッパ教官をつとめ、その間陸軍軍楽隊員の募集のため静岡を訪れたりしている(前掲中村著)。

喇叭手出役のうち、戸張胤邦(重太郎、一八五三—一九一七)は、明治六年上京して教導団に入り、「楽隊生徒」になっている(東椎路区有文書・戸籍簿)。ちなみに戸張は、二丸留守居をつとめた戸張喜太夫胤行(高七百俵)の孫であり、沼津郊外の西椎路村に移住した。沼津兵学校では修業兵でもあった。軍楽隊に属したのは短かったようだが、後に砲兵科に転じ、西南戦争から日清・日露戦争に従軍、最終的には陸軍砲兵少佐となった(戸張眞明氏所蔵履歴書)。

数学や理工系の学問はもちろんで、体育や美術も西洋の軍事技術とともに幕末の日本に入ってきた。音楽も同様である。ギュテイング直系のラッパ手が存在した沼津兵学校は、揺籃期の日本の洋楽史上に位置づけられる。(樋口雄彦)

# お知らせ欄

◎企画展「浮世絵に描かれた東海道と沼津宿」の開催

本年は、東海道に宿場が設置されてから四百年になることを記念し、県内各地で東海道をテーマにした各種の催しが開催されています。

当館でも、夏の企画展として、浮世絵に描かれた江戸時代後期から明治時代初頭にかけての東海道を振り返るとともに、江戸時代を通して沼津宿にあった二軒の本陣、間宮本陣・清水本陣の資料を紹介します。

交通機関が発達した現在、徒歩で旅をした時代の東海道と沼津宿を振り返ってみませんか。



「東海道五十三対 沼津」  
(加藤雅功氏所蔵)  
歌川国芳画 堅大判

「東海道五拾三次之内〈保永堂版〉沼津黄昏図」  
(木村昭和本氏所蔵)  
歌川広重画 横大判



期間… 7月14日(土)～9月30日(日)

※10月2日(火)～4日(木)は、展示替作業のため、4階展示室のみ閉鎖。

会場… 4階展示室

パンフレット… 「浮世絵に描かれた東海道と沼津宿」、B5版カラー6ページ(絵葉書付)、無料

無料

◎歴史講演会の開催

企画展に関連し、東海道と沼津宿をテーマにした講演会を開催します。

講師… 辻真澄氏(沼津市史編さん 専門委員)

演題… 「東海道と沼津宿」

日時… 8月26日(日)午後2時～4時

会場… 当館講座室

定員… 一〇〇名、参加費無料

申込み… 当館まで電話で

◎平和を考える親子戦争史跡めぐりの開催

マイクロバスで市内に残る戦争関連の史跡を見学します。

日時… 8月15日(水)午前9時～午後4時

4時

対象… 小中学生とその保護者

定員… 10組20名

費用… 無料、弁当持参のこと

申込み… 当館まで電話で

◎古文書解読入門講座の開催

はじめて古文書に接する方を対

象に、初心者向け講座(全五回)を開催します。

日程… 9月9日、16日、23日、30日、10月7日の各日曜日

時間… 午後2時～4時

講師… 久保田豊氏(沼津市史編さん 専門委員)

会場… 当館講座室

定員… 40名

申込み… 電話で先着順

費用… 無料(辞書代は別)

◎『沼津市博物館紀要』25の刊行

体裁… B5版、92ページ

頒価… 五〇〇円

内容… 樋口雄彦「下張から発見された沼津兵学校関係文書」

「沼津兵学校関係文献目録・補遺」、渡邊慈子「沼津城の屋根瓦」

「沼津城の屋根瓦」

沼津市明治史料館通信 第66号

編集 沼津市明治史料館  
発行 沼津市明治史料館

〒410-0051 沼津市西熊堂三二二-1  
電話 〇五五九-二三三三三五  
FAX 〇五五九-二五三〇一八  
http://www.city.numazu.shizuoka.jp/sisetu/meiji/index.htm